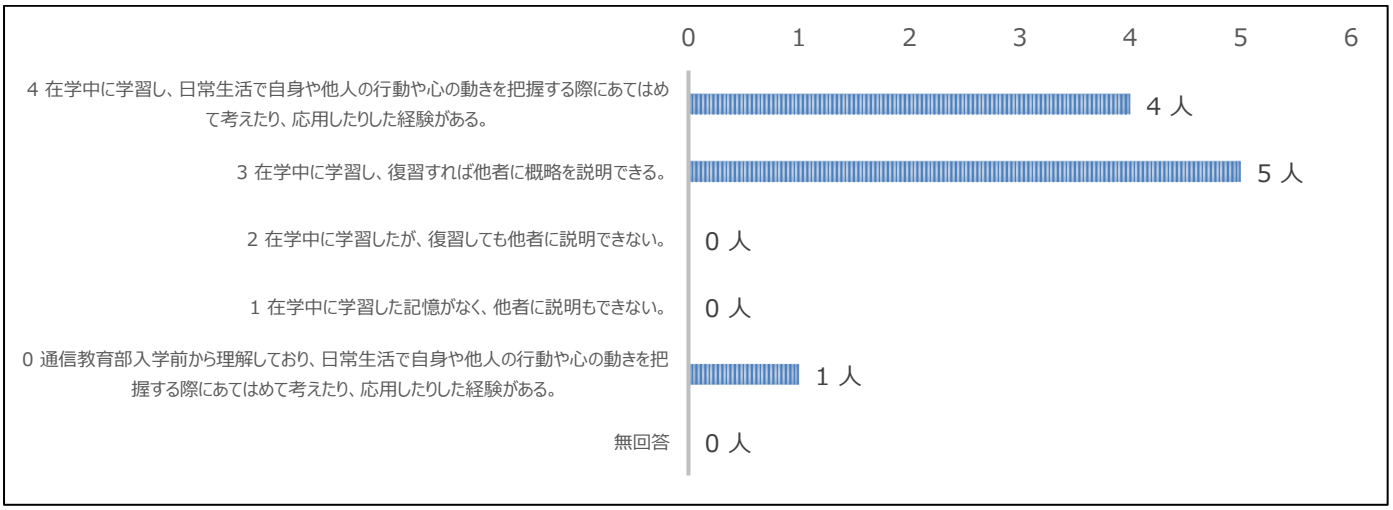
2019 年 9 月卒業者　学びの振り返りアンケート

【福祉心理学科】

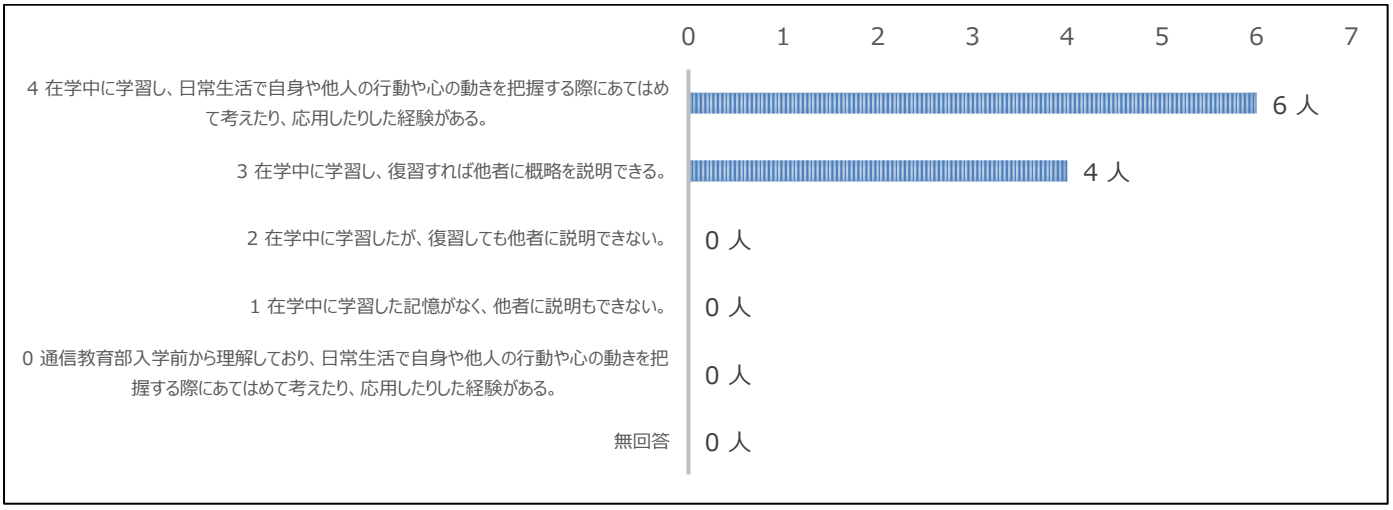
- 卒業者数：　12 名（学部全体　58 名）
- 回答者数：　10 名（回収率　83.3%）
- 質問項目と回答結果は下記のとおりです。キーワードは、振り返りの手がかりの扱い。

１）人間の能力の不完全性・限界などについて

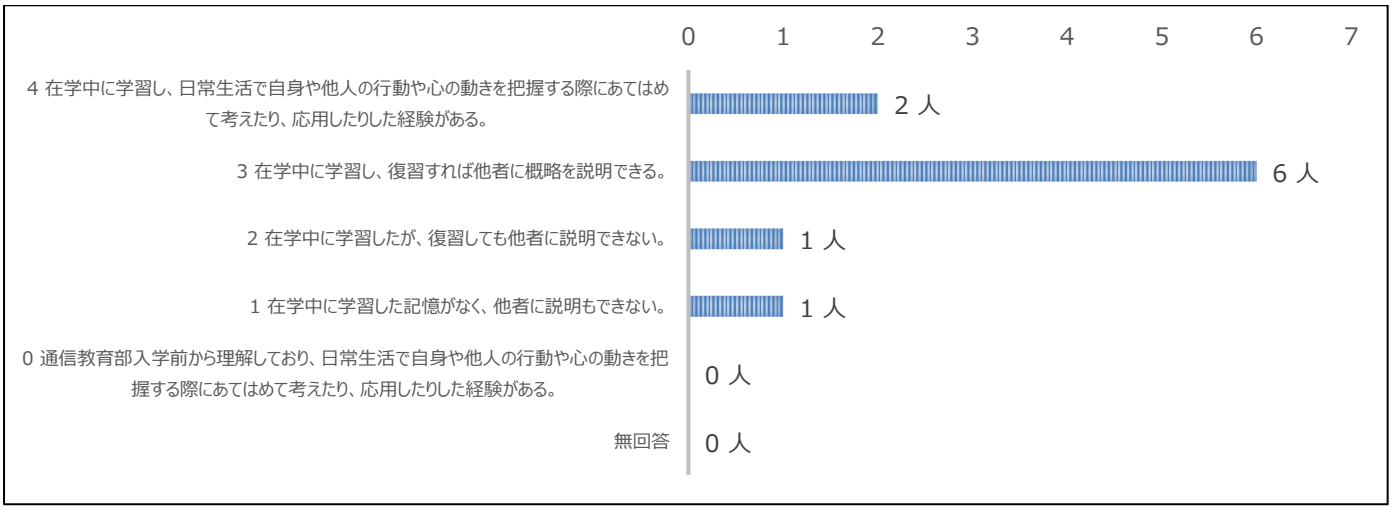
「自分の意思で行っていると思っている行動や思考が、無意識から影響を受けている可能性がある」こと　キーワード：無意識



「人間は外の世界を正確に認知しているわけではない」「色眼鏡で見ている可能性がある」こと　キーワード：錯視、スキーマ

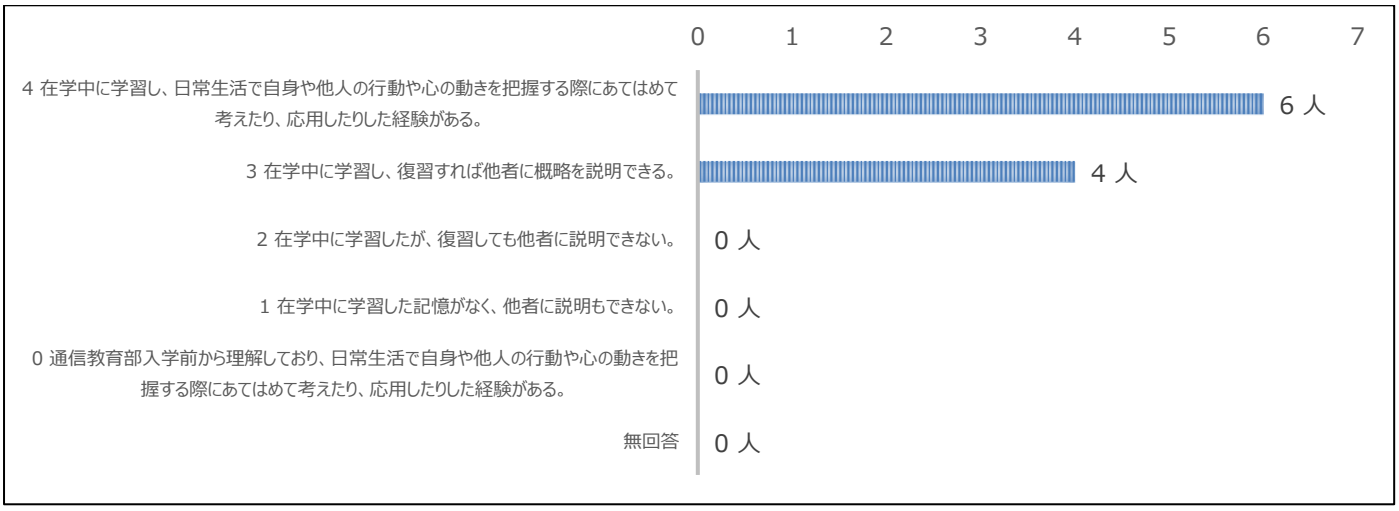


「権威者の指示があれば常識人が理解しがたい残虐なことをする可能性がある」こと　キーワード：ミルグラムの実験

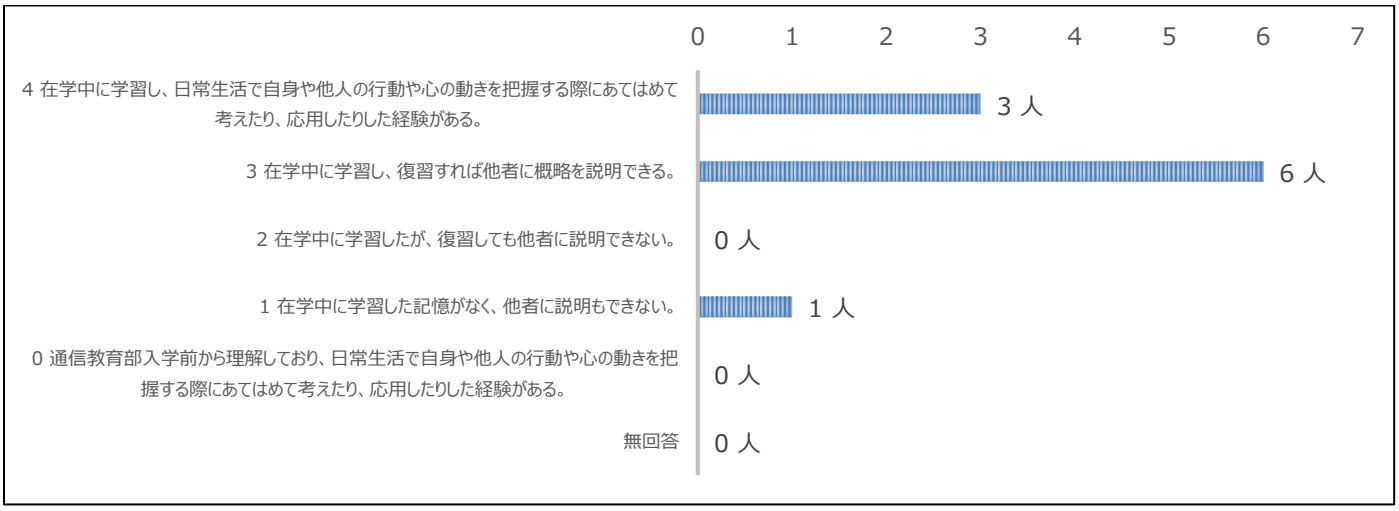


２）自己理解・他者理解を行う際の視点について

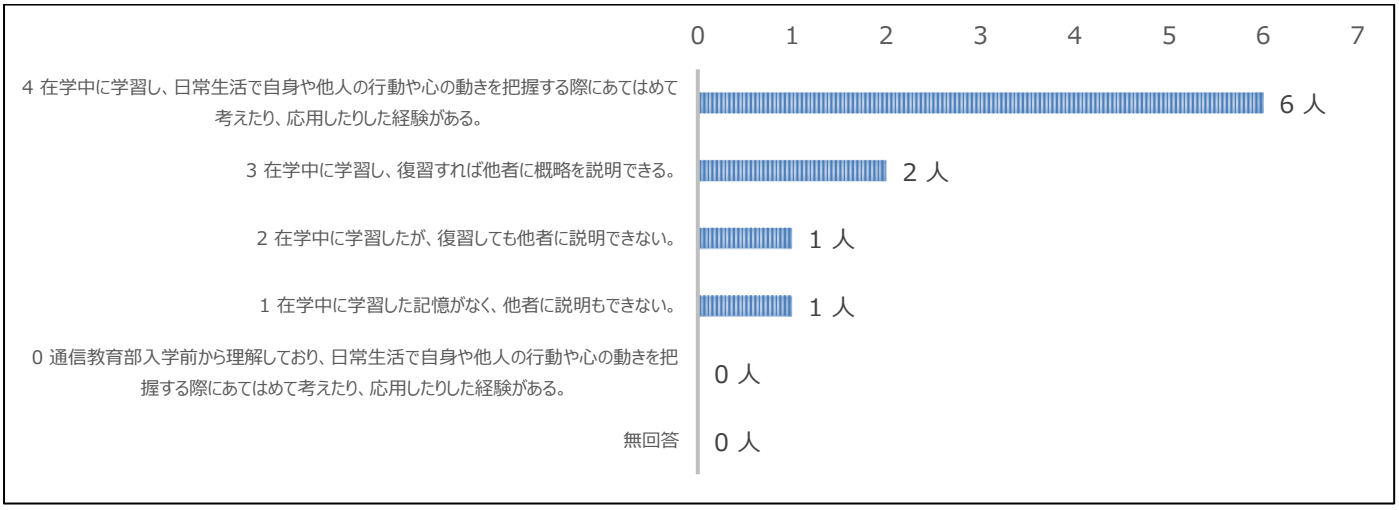
人間は防衛機制を用いて不安や緊張にもちこたえ現実に適応するが、防衛機制が偏ると適応上の問題が起きる場合もあること
キーワード：抑圧、反動形成



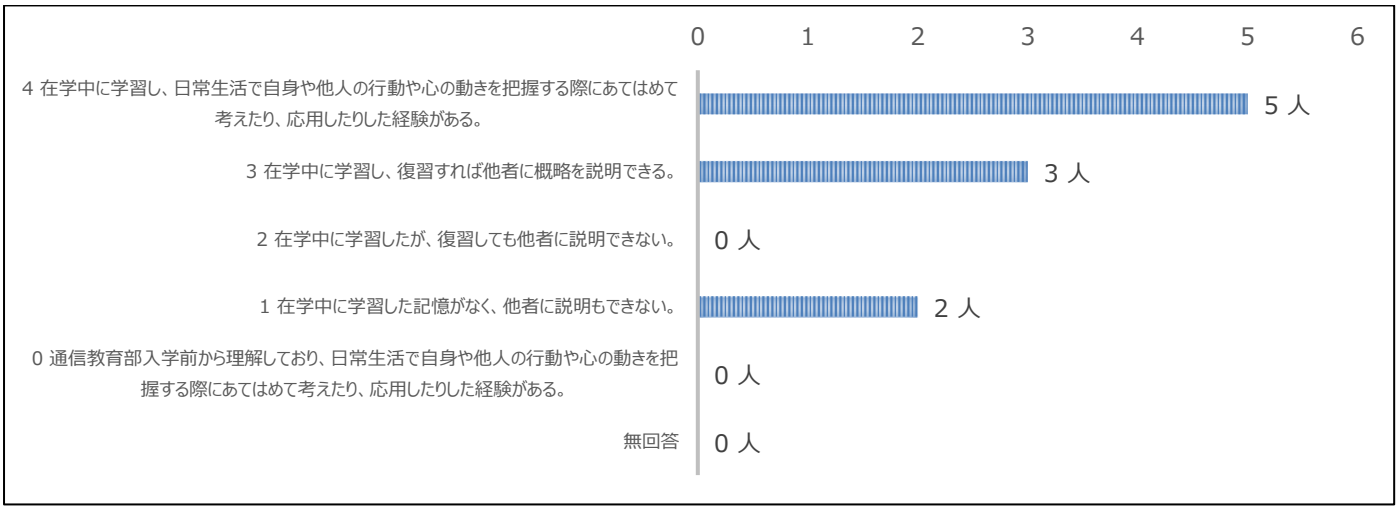
「出来事の原因をどこに求めるかで感情や価値判断が影響される」「自責の念が強すぎると抑うつ状態になる可能性がある」こと
キーワード：原因帰属



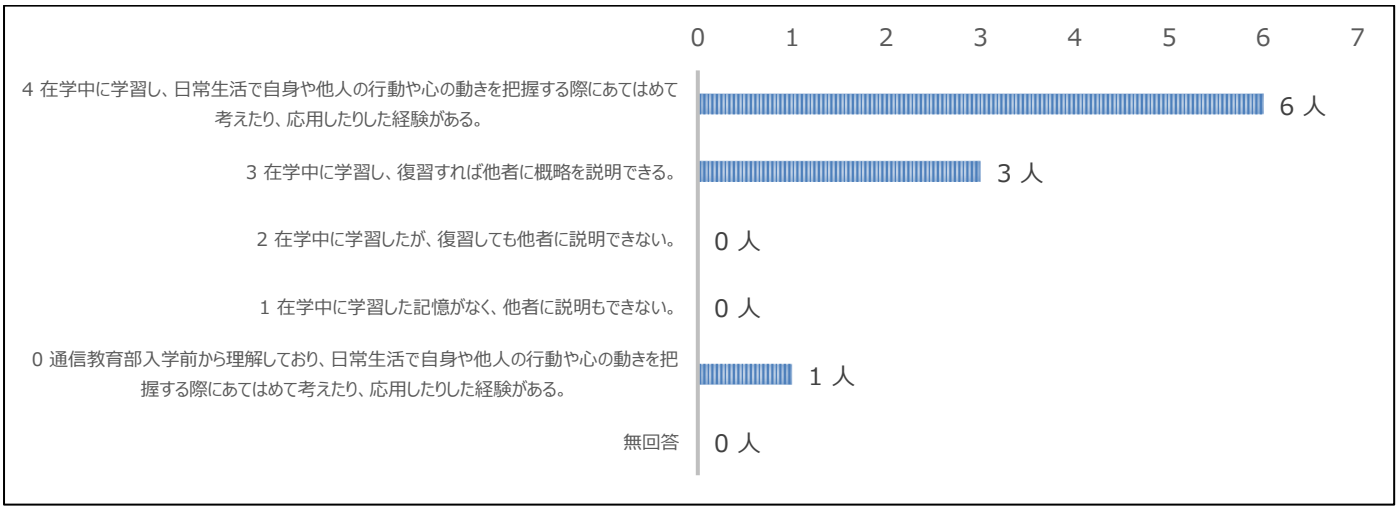
人間の認知や行動は、他者や周囲の環境から大きな影響を受けており、その影響を必ずしも意識しているわけではないこと　キーワード：社会的促進、アッシュの同調実験



人間は同じ対象に相反する態度や感情を示すこともあること　キーワード：アンビヴァレンス

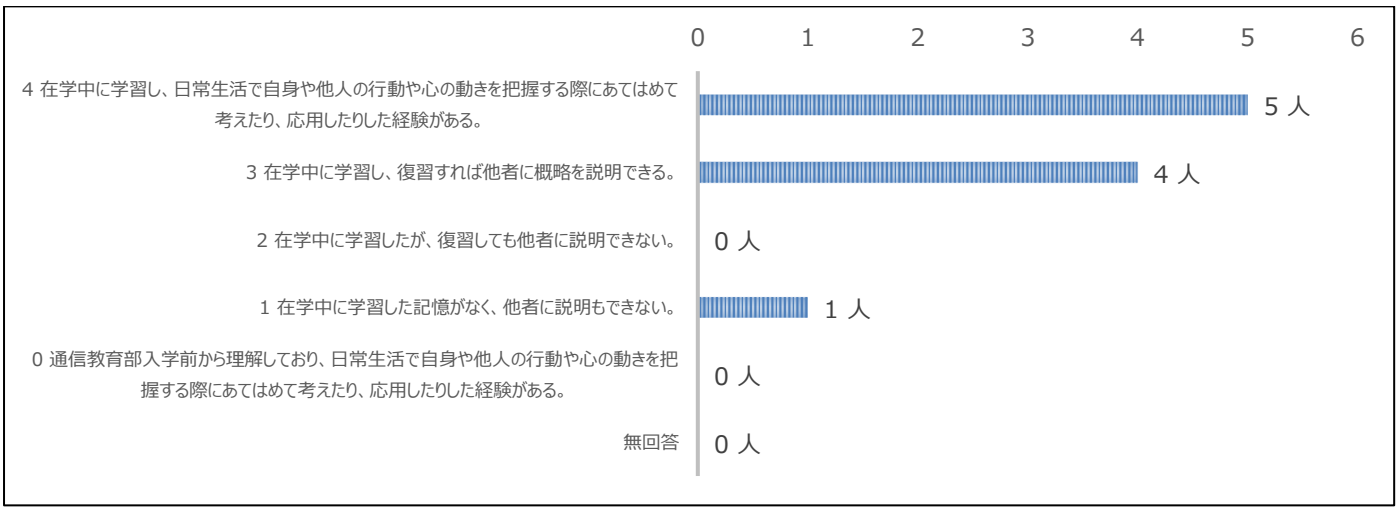


自分の力ではどうしようもない失敗経験が続くことで、無力感に陥り、やる気を失ったり、自暴自棄状態の人がいること　キーワード：学習性無力感

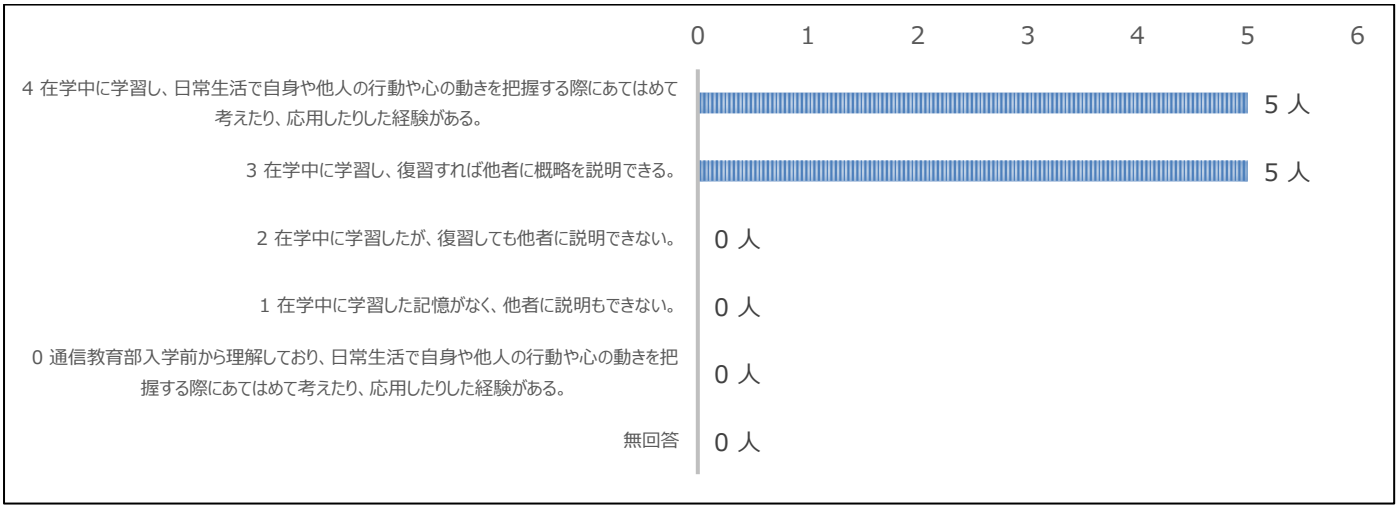


３）集団理解・社会理解を行う際の視点について

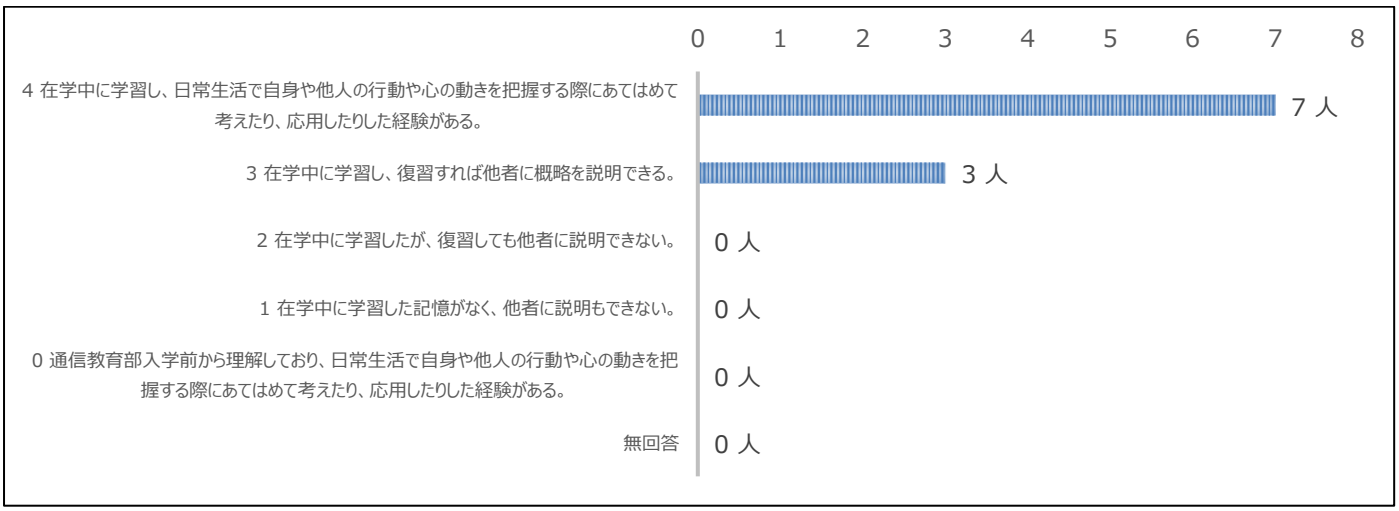
人間の行動は個人要因と環境要因の両方の影響により決まるのであり、「何かが起きた時に個人のみの要因にしてしまいがちな思考は誤りの可能性がある」こと　キーワード：レヴィンの法則、基本的帰属の錯誤



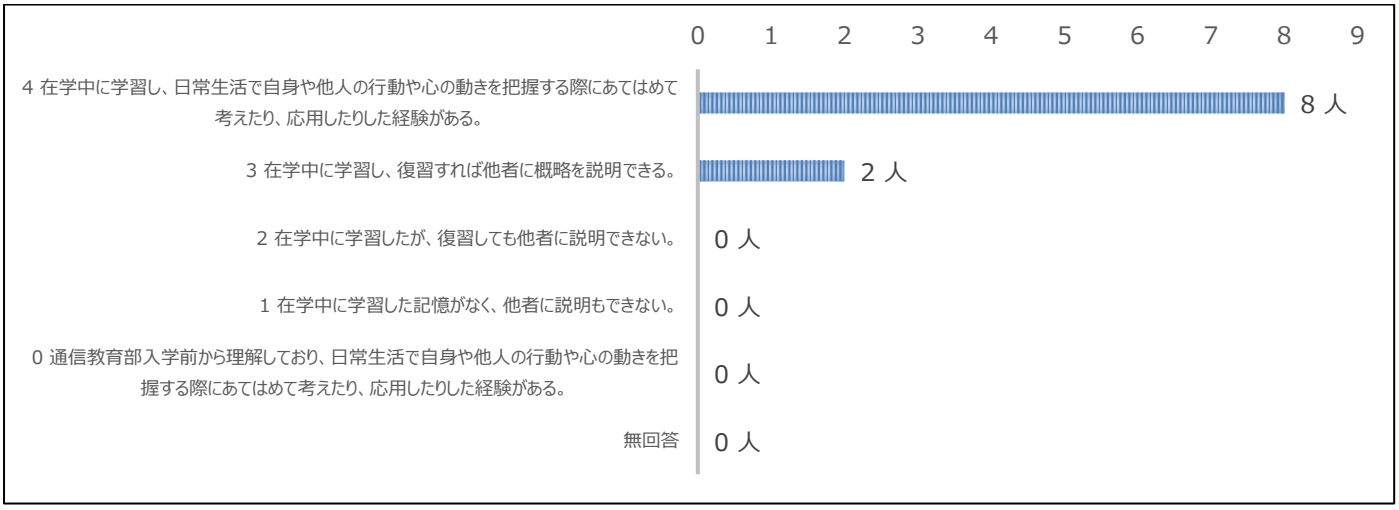
グループによる意思決定は、結束を優先して反対を唱えにくくなるなどの影響で最適な結論が出ない場合があること　キーワード：集団凝集性、集団極性化



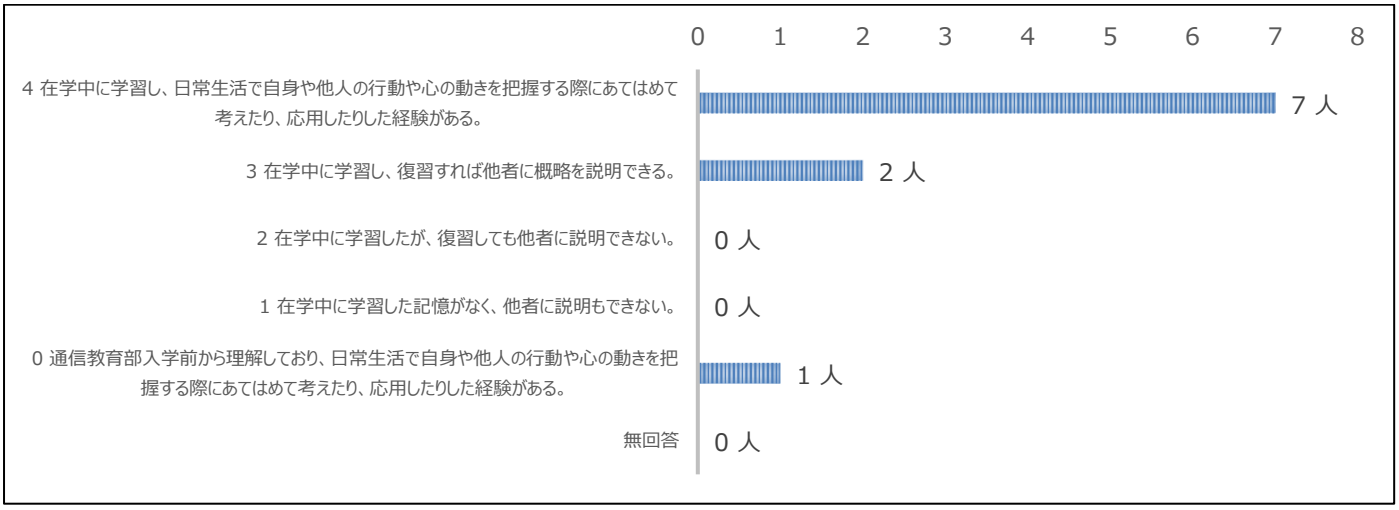
各発達段階には克服すべき危機、達成すべき発達課題があり、それを乗り越えないと以降の発達に影響があること、ただしその影響は固定的ではなく、その後の環境等により回復可能であること　キーワード：エリクソン、ハヴィガースト



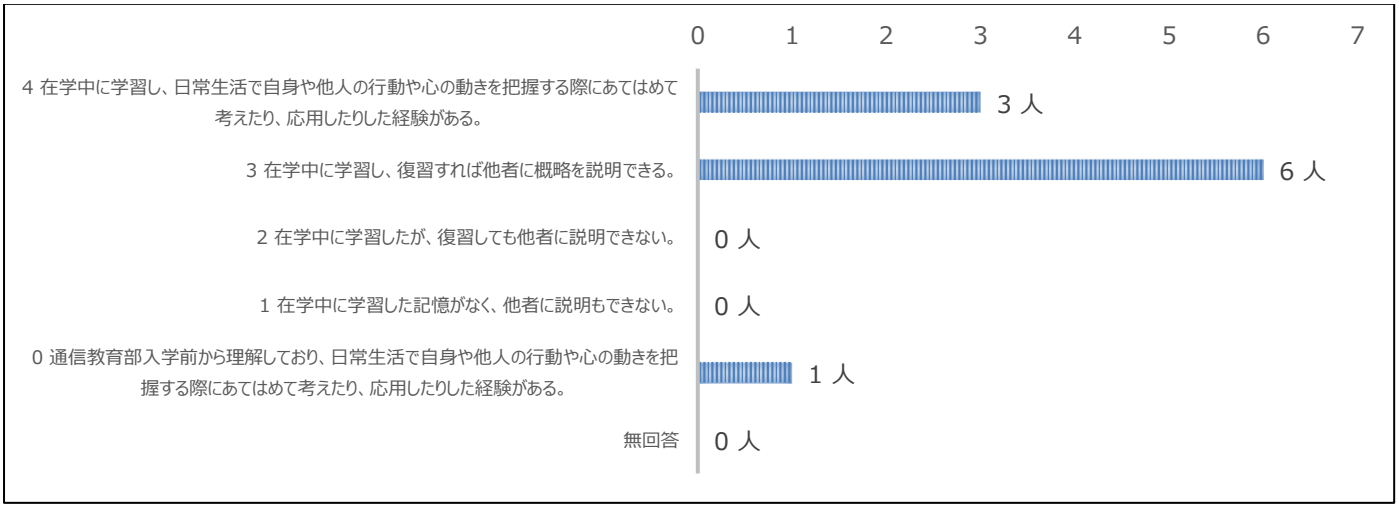
安全基地の役割を果たす発達初期の養育者との関係・愛着形成は将来の発達に重要な役割があること　キーワード：愛着、ハーロウのサルの針金・布製母親の実験



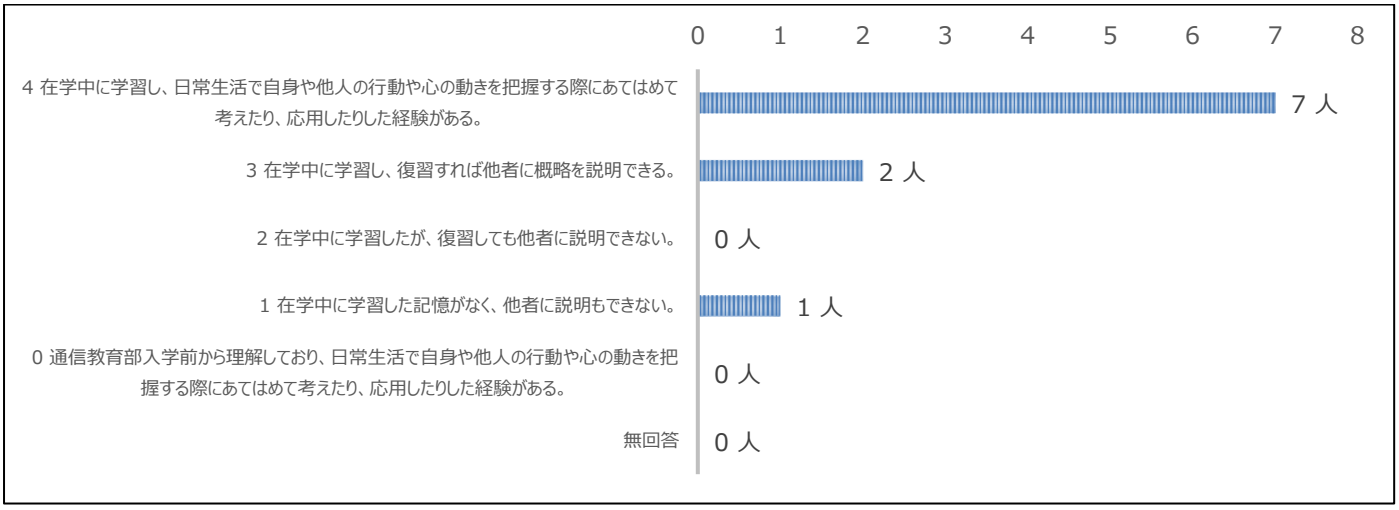
幼児に見られるイヤイヤ期、青年期の第二反抗期など一見てこずりに見える現象も、発達的には重要な意味や役割があること　キーワード：自己・自我、自律



発達を先取りした教育の効果をとく考え方では、子どもが独力で解決できるレベルより少しだけ難しいことを大人と共同作業することで、子どものできることを広げられると考えること　キーワード：発達の最近接領域論、ヴィゴツキー

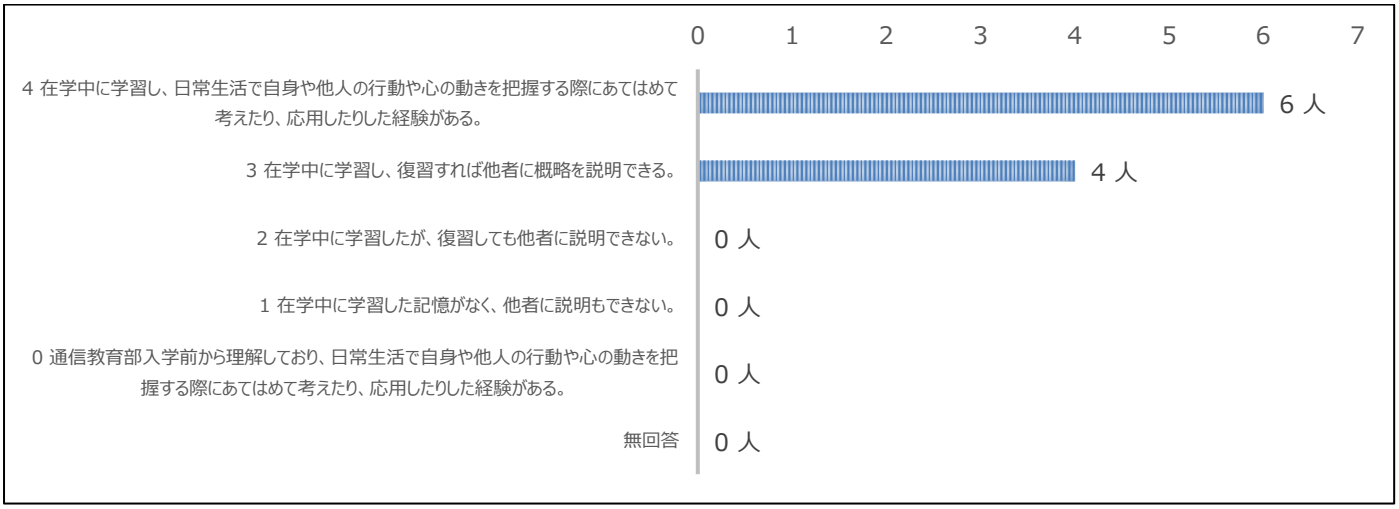


「人は一生涯発達」し「高齢期には衰えるばかりではなく結晶性知能など維持・伸長するものもある」こと　キーワード：流動性知能と結晶性知能、生涯発達心理学

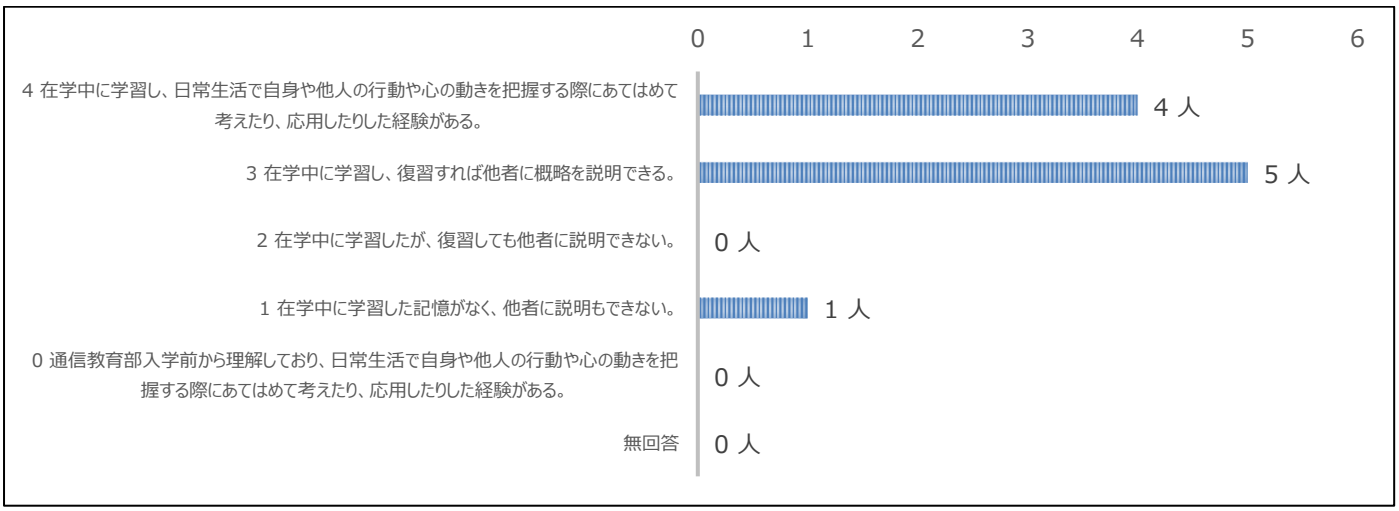


５）学習に関する知識・視点について

ある行動が起きた時に賞罰を刺激として与えることで、よい行動の形成も悪い行動の形成も、条件づけによる学習で形成できること　キーワード：行動主義、S-R 理論

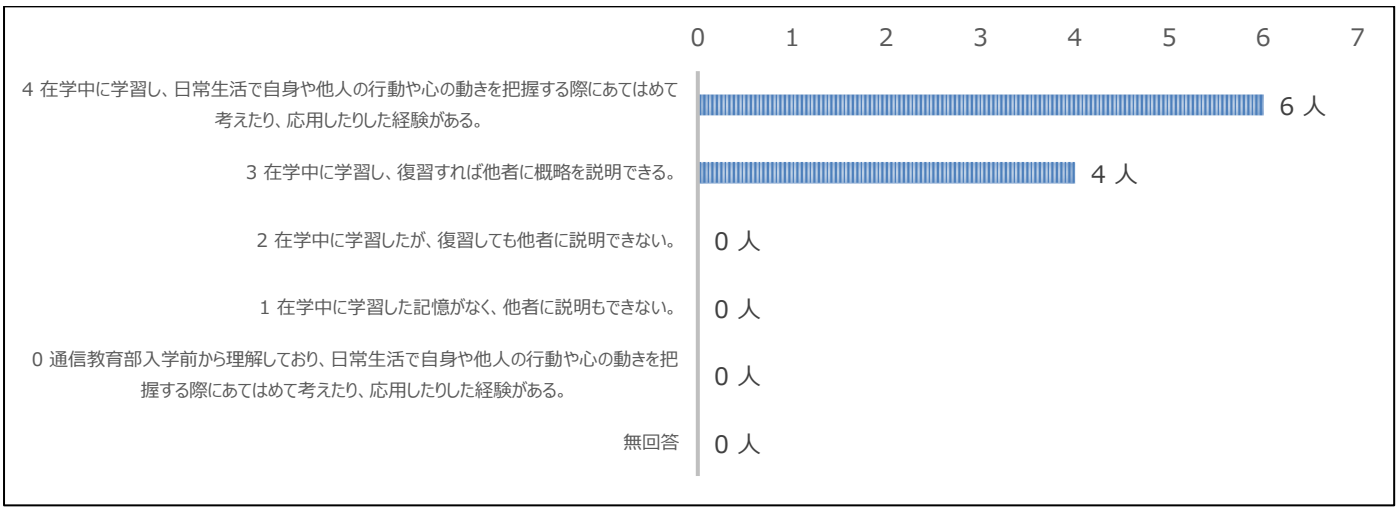


賞罰ではなく、有意味な学習、相互に関連づいた知識や学習者のスキーマと関連した学習が効果的であるとする学習観があること　キーワード：認知主義

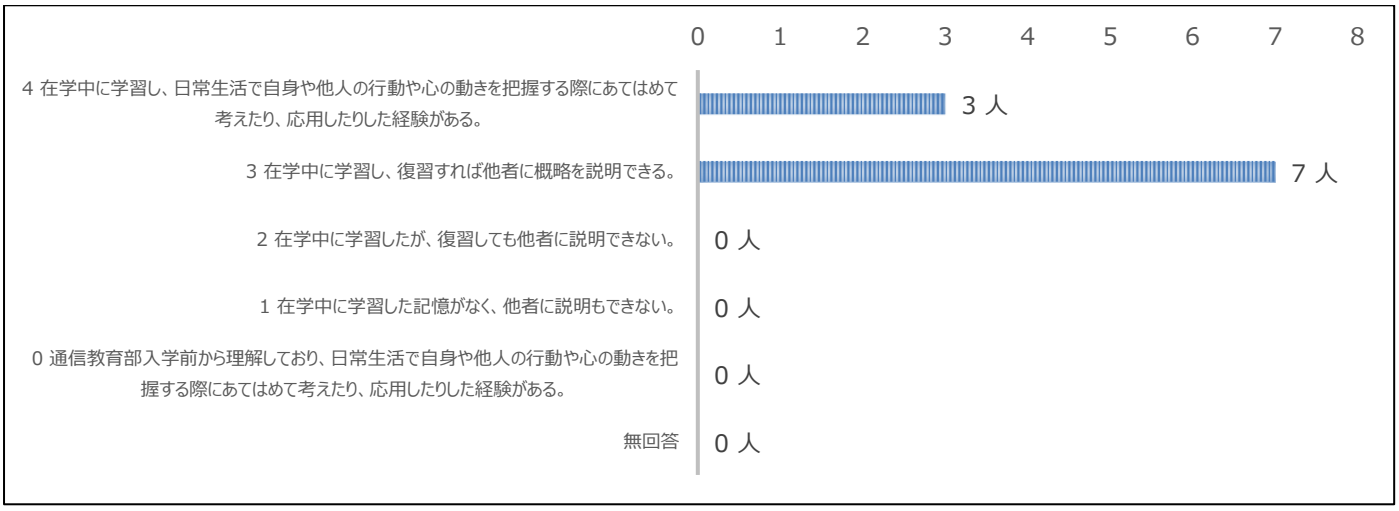


６）心理学的な支援・健康に関する知識・視点について

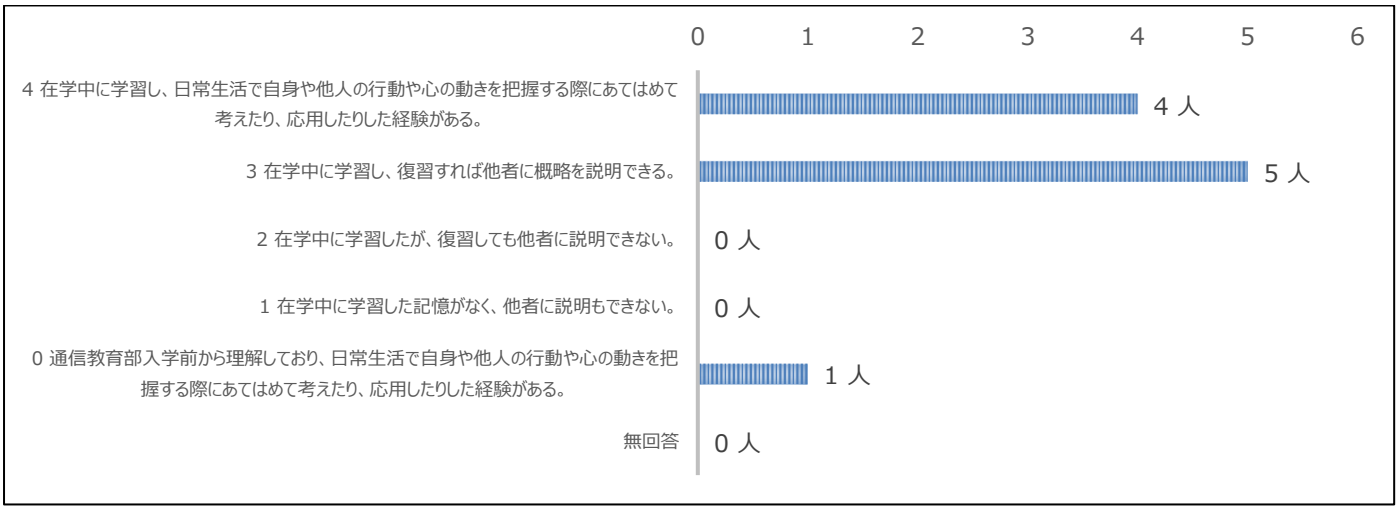
人を支援する際に、その人にまつわることを知る「アセスメント」が大切で、アセスメントには面接・観察・心理検査など多様な方法があること　キーワード：観察法、面接法、投影法、作業検査法、質問紙検査法



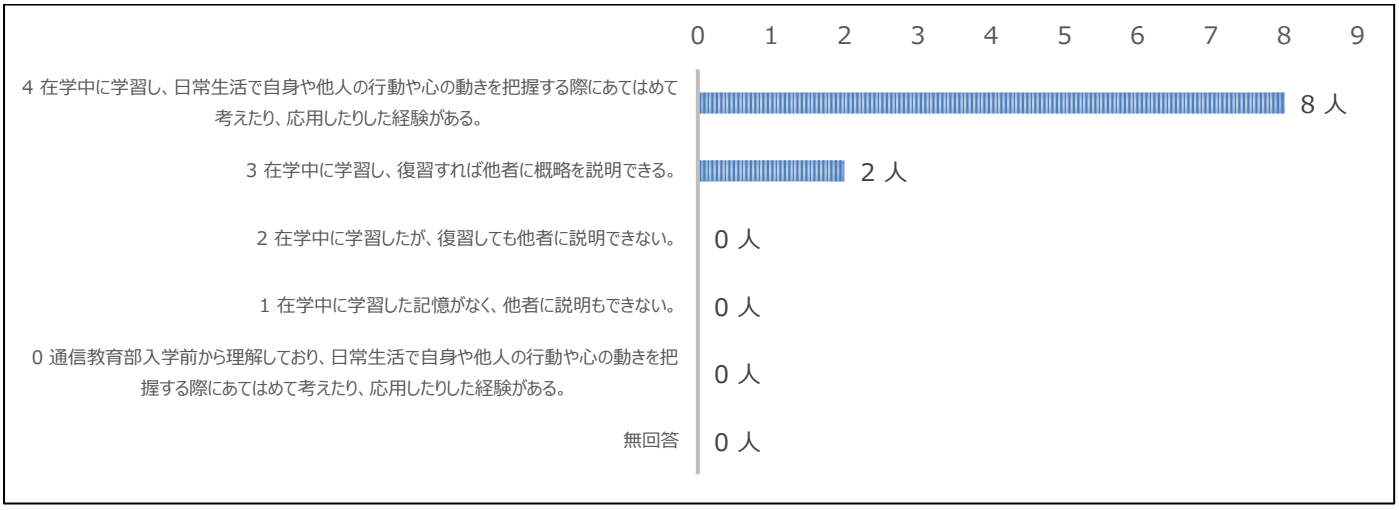
言語表現を媒体とする心理療法においても、言語ではなく行動によって感情が表現されることがあること　キーワード：行動化



クライエント自身の成長に力をおく支援者がとるべき態度として、「共感的理解」「無条件の肯定的配慮」「支援者自身の自己一致」があること　キーワード：ロジャース、来談者中心療法

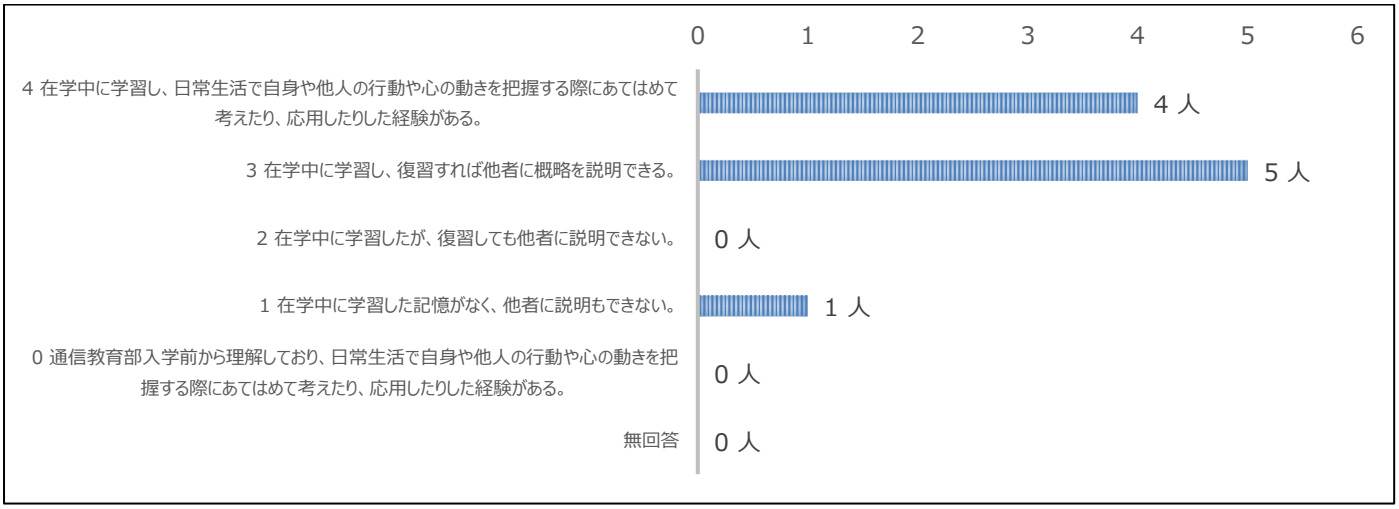


カウンセリングでは、クライエントの不安や抵抗、転移や逆転移などを理解し、受容的姿勢での傾聴などによる信頼関係の構築が大切なこと　キーワード：ラポール

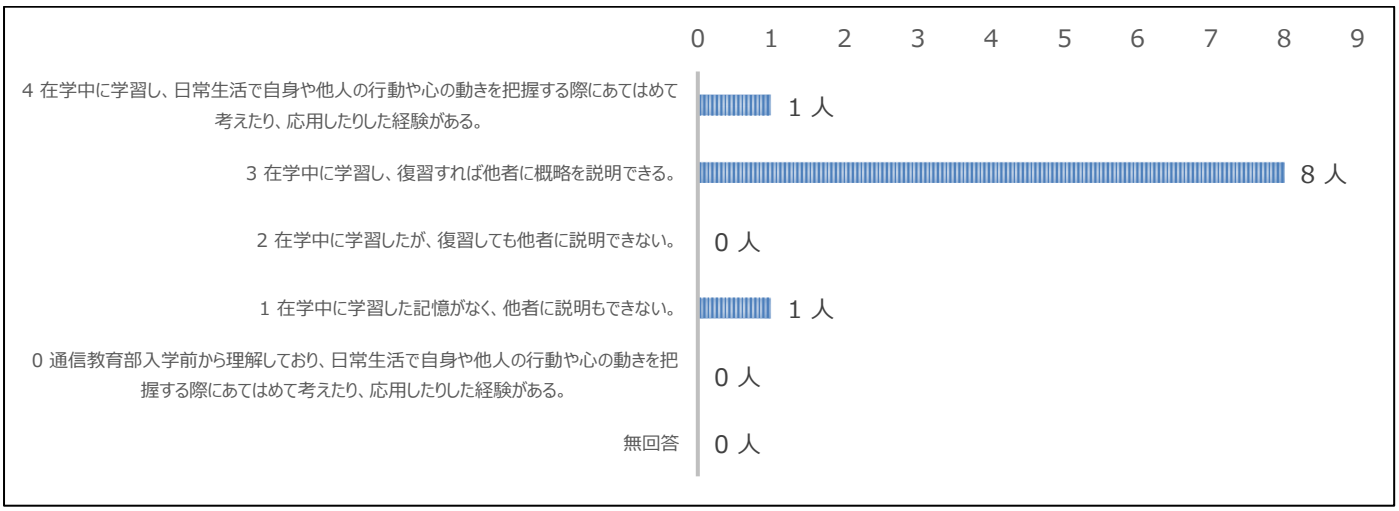


７）その他

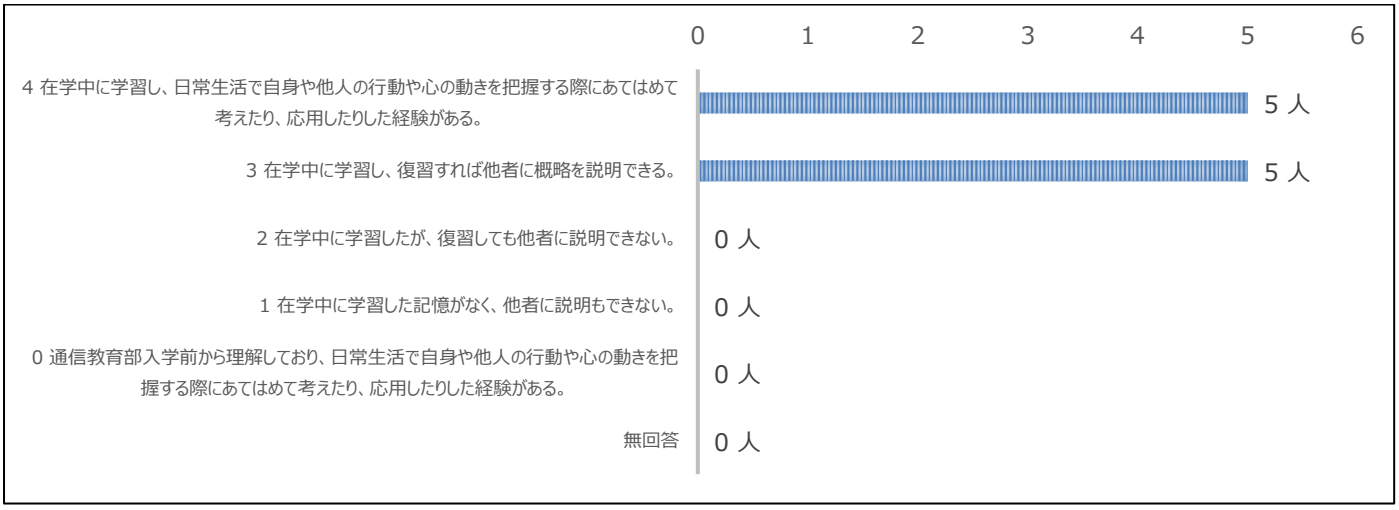
コミュニケーションでは、送り手の意図だけではなく受け手の受け取り方も大切で、また相互理解だけではなく相互拘束の側面もあること　キーワード：コミュニケーション理論



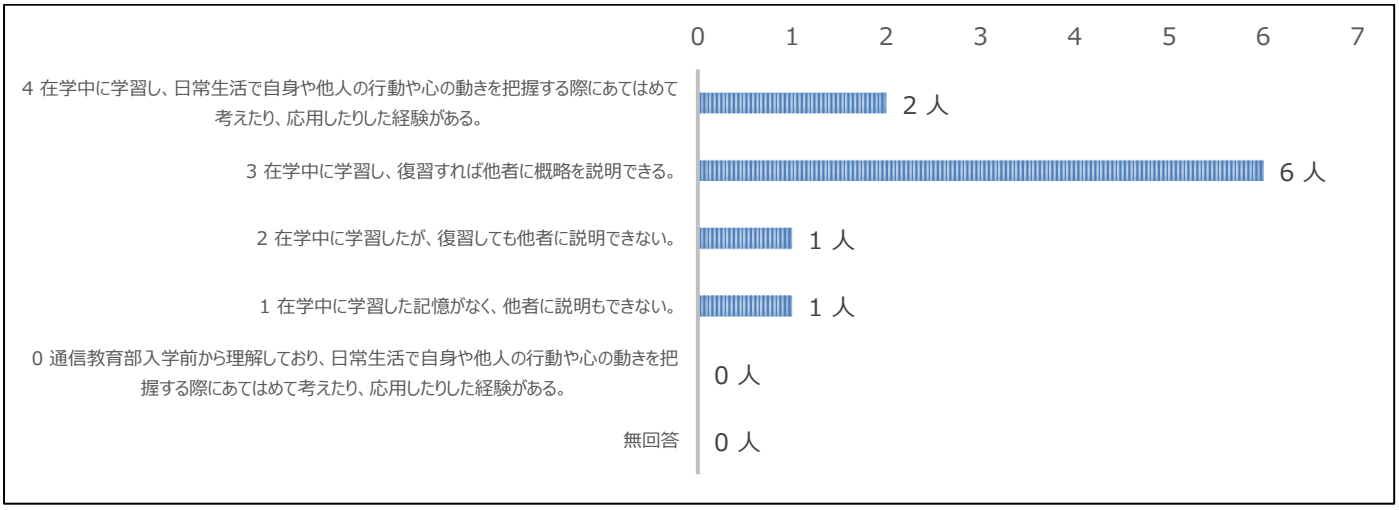
問題や危機は、動かせない現実ではなく、相互作用のなかで形作られている面があり、誰が何を問題としているのかをとらえるべきこと　キーワード：社会構成主義



家族や集団等が問題を乗り越えるためには、家族等の人間関係に働いている既存のルールの変更が必要だが、変更には葛藤も生じやすいこと　キーワード：家族療法

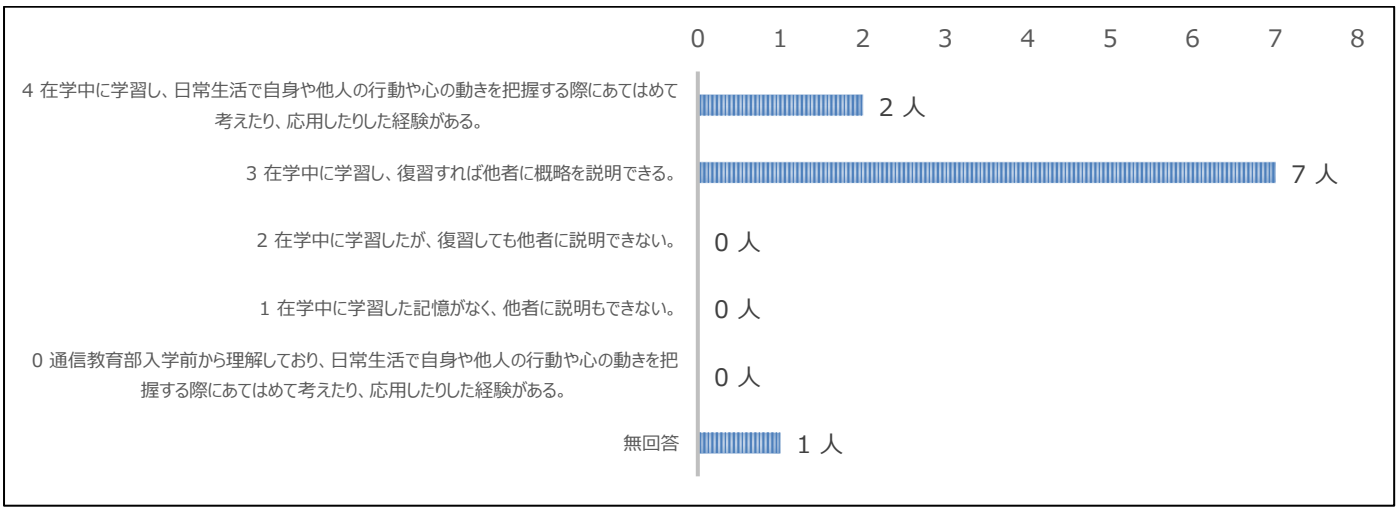


一般には「悲しいから泣く」と考えられるが、「泣くから悲しい」など行動が感情を形成する場合もあること　キーワード：ジェームズ・ランゲ説

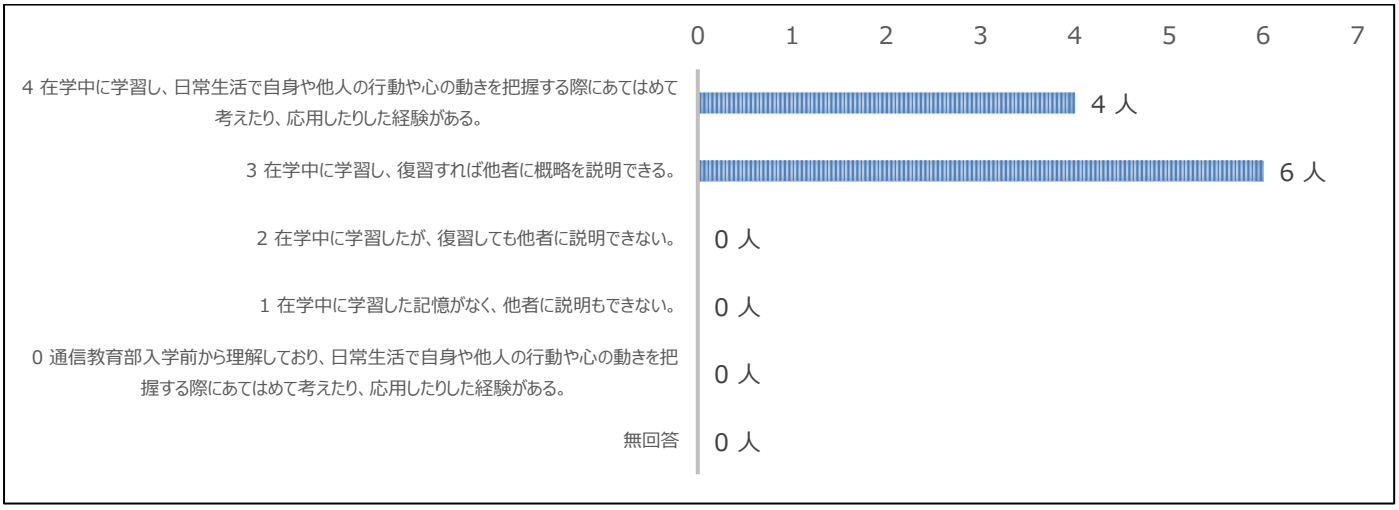


８）科学的な思考法について

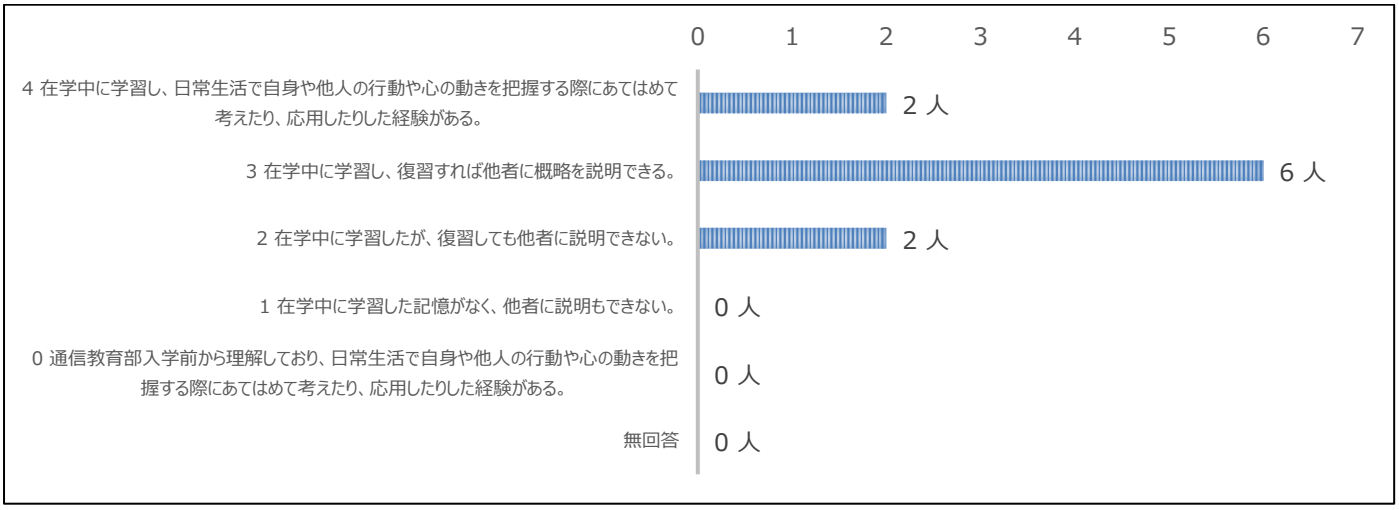
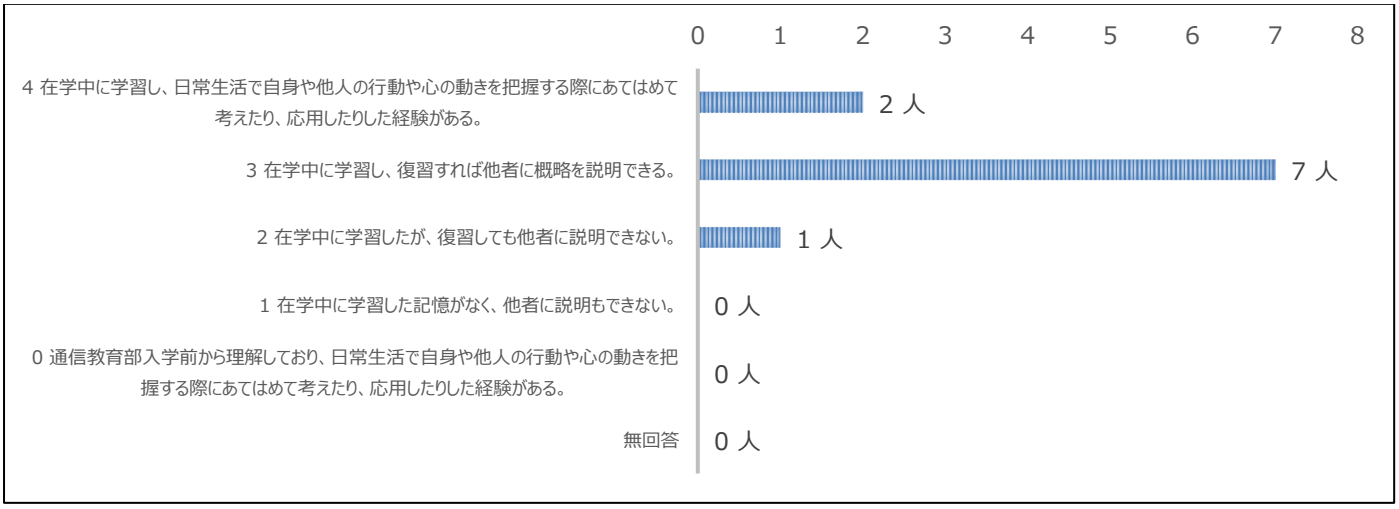
仮説が成り立つかの正確な結論を出すには、比べる条件以外の要因のコントロール＝同じにする＝が必要なこと　キーワード：実験計画、仮説検証、要因統制



ある２つの変数の間に関係性が見出されても（例：ゲーム時間とタイプ A などの性格特性）、そこに因果関係があるとは限らないこと　キーワード：相関関係・因果関係



「グループ間に差がある」などの仮説が支持されるかの検証には、平均値などの大きさの見た目の比較ではなく、統計的な検定処理を行い有意性の確認が必要なこと　キーワード：t 検定、カイ二乗検定、標準偏差、有意確率(危険率)



人間や社会に関する心理学的な説明は、個人差や状況の影響を受けるため、いかなる状況でも全ての人に例外なくあてはまる「わけではない」こと　キーワード：個人差、有意確率、母集団、サンプリング